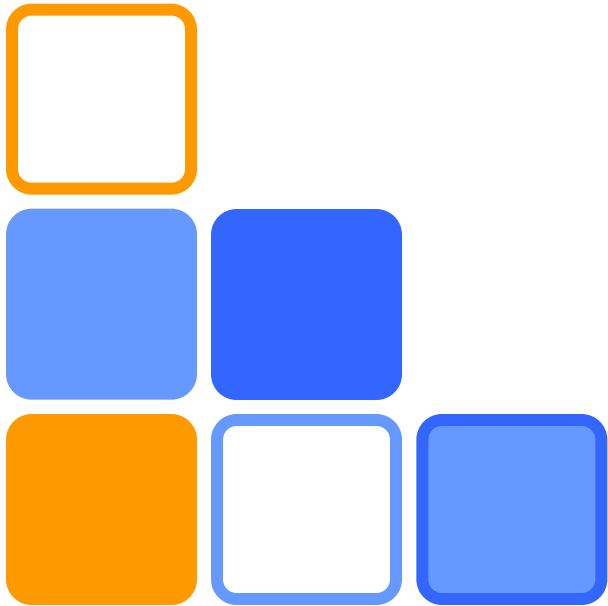


化粧品に使われるパラベン





なぜ化粧品に防腐剤を使用するのですか？

化粧品などの人体に使用する製品では、製造時の汚染（一次汚染）

開封後に空気中の浮遊菌や、消費者の皮膚から侵入する微生物からの汚染（二次汚染）

化粧品が汚染を受けると、腐敗、変色、異臭の原因となります。

薬事法の61条で「3年以内に品質が変化するおそれのある化粧品は使用期限の表示が義務づけられている」のですが、それ以外は明確な使用期間が表示されていない場合があります。

消費者の使用状況や保管状態によって化粧品は少なからず汚染を受けます。

特に二次汚染の場合は**カビ**や**酵母**が原因の場合が

多いのですが、原因微生物が人体に有毒性を

示すものであれば、疾患の原因になりえます。

このような汚染を防止するために防腐剤を添加します。





化粧品の防腐剤にはどのような物がありますか？

国内では化粧品基準の別表第3^{*}に記載されている物質が定められた含有基準量内で防腐剤として添加することを許されています。

※ : <http://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-11120000-Iyakushokuhinkyoku/keshouhin-standard.pdf>

パラベン以外の代表的なものとしてフェノキシエタノール、安息香酸塩類、サリチル酸塩類、メチルイソチアゾリノン、イソプロピルメチルフェノール、DMDMヒダントインなどの多くの防腐剤が認可され、使用されています。



これらの中には刺激性を考慮してシャンプー・リンスなどの洗い流すことを前提に使用を認められている物が多くあります。



なぜパラベンがよく使われるのですか？

パラベンは古くから使用されていたことから、その効果や安全性に関する情報が数多くあります。

また、パラベンは他の防腐剤に比較して低い含有量で優れた効果を示すことに加え、急性毒性、皮膚刺激性、眼刺激性などの毒性がほとんど認められないことが特徴と言えます。

パラベン以外の防腐剤の中には、低い含有量では十分な防腐効果が得られず、そのためパラベンと同じ効果を出すために含有量を上げれば刺激性などの毒性が強くなるような物もあります。





- 最後に -

このように一般消費者が使用する化粧品にはカビや細菌による汚染から守るために
これまでにいくつかの防腐剤が使用されてきました。

中でもパラベン効果と安全性のバランスが良く古くから使用されてきました。

パラベン類は天然物中にも含まれている報告もあり、また、日常生活の中で化粧品、
食品あるいは医薬品中のパラベンに触れたり口にしたりする機会も多くあります。

パラベンは化粧品だけでなく私たちの日常生活を目に見えない形で守っている
存在なのです。